

自己評価報告書

平成30年度 月島第一小学校 自己評価報告書				
学校名：中央区立月島第一小学校	所在地：中央区月島4-15-1			
校長名：荒川 比呂美				
児童数 430名	学級数 14	教員数 28名	職員数 3名	

1 重点目標の達成状況及び取組状況

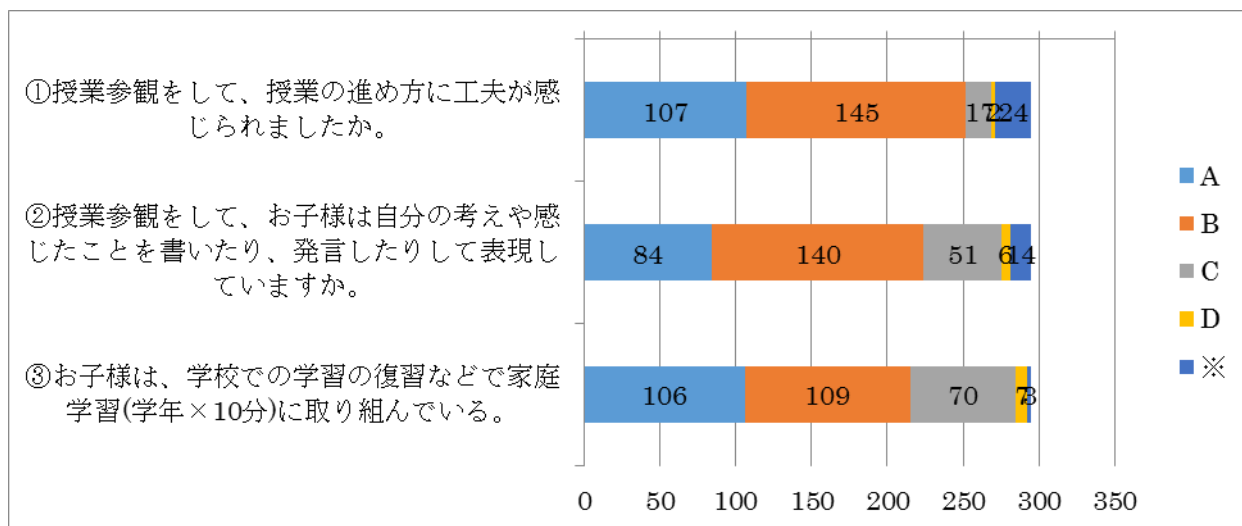
〔保護者アンケート300：提出率70%〕

評価：保護者・児童

〔帯グラフは、保護者アンケートの結果〕

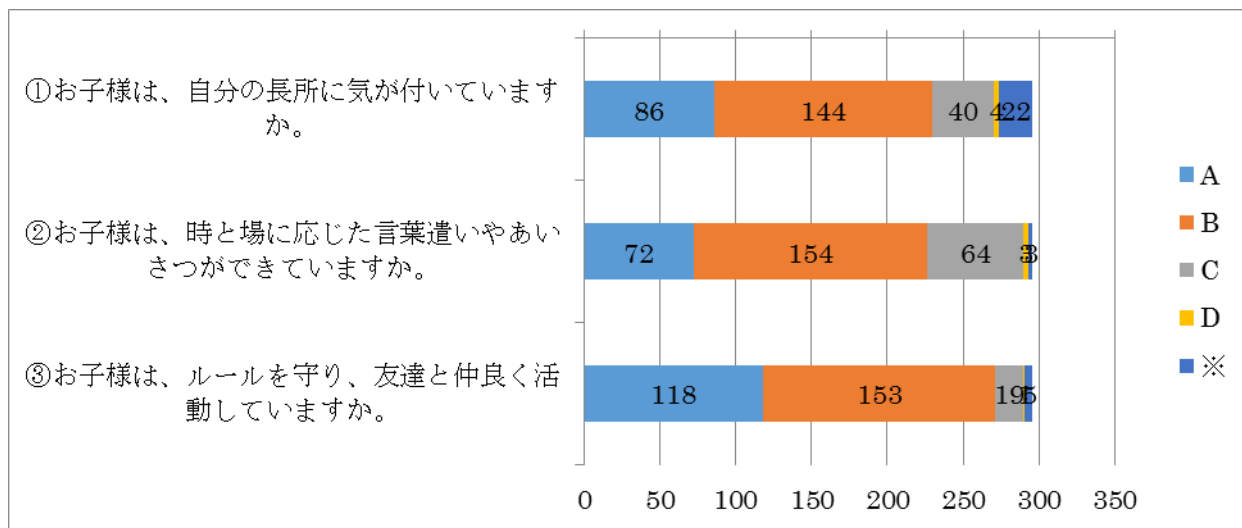
〔A:よくあてはまる B:あてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない ※よくわからない〕

重点目標1 基礎的な知識及び技能の確実な定着と学びに向かう力を育成する



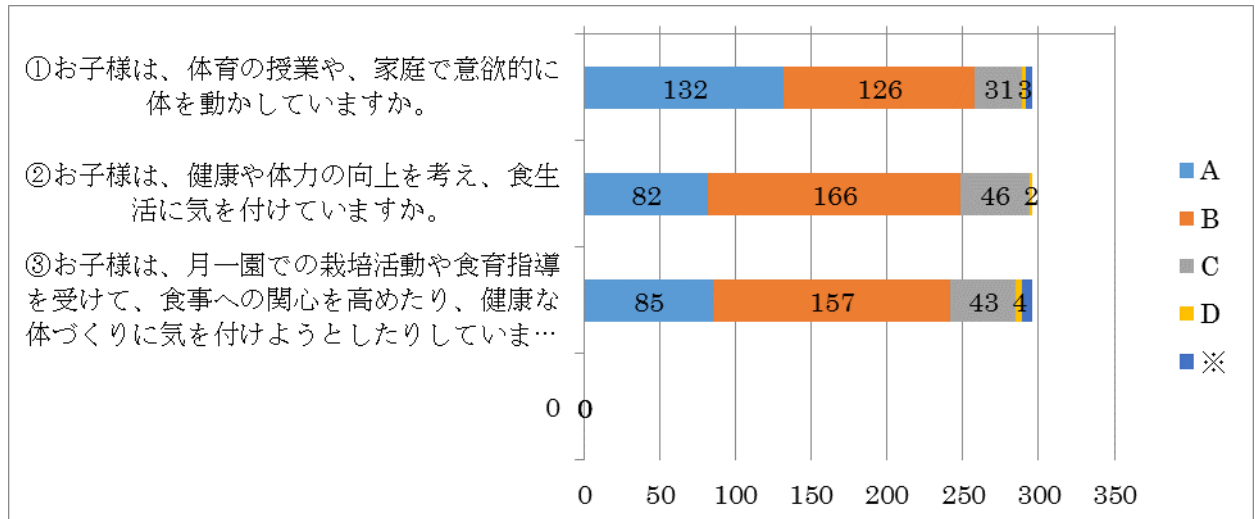
- ・「あてはまる・達成」と評価している保護者の割合は①85%、②76%、③73%であった。
「授業の工夫」に関しては、昨年度も84%、「考えや感じたことの表現」も76%で、ほぼ同じである。児童アンケートで「算数の授業は楽しい」と答えた児童の割合は、昨年度73%→今年度71%で、残念ながら大きな変化はみられない。「家庭学習」については、学年×10分の具体的な時間を示しての取組は、73%ができていた状況であった。
- ・算数のさらなる学力向上をめざして、校内研究2年目の実践を進めている。今年度から、木曜日放課後に、個別の補習学習「スタディ月一」を各学級で事前に保護者と本人に声をかけ、実施した。児童は、「わかった」「できた」と表情が明るくなり帰って行き、保護者にも好評である。次年度も、算数の基礎的な知識と技能の定着を、低学年から積み重ねて、継続して根気強く取り組んでいく。

重点目標2 規範意識・思いやりの心を醸成し、いじめの根絶を図る



- ・「あてはまる・達成」と評価している保護者の割合は、①78%、②76%、③92%であった。
「時と場に応じた言葉遣いやあいさつ」について昨年度と比べると、保護者は84%→76%、児童は、81%→83%と、増減が異なる結果である。今年度は、学期に1回1週間、学年で担当した”あいさつキャンペーン運動”を行った。朝、登校時に自分から進んであいさつする児童は、なかなか増えない状況である。児童一人一人の心の安定を見守りながら、今後とも進んであいさつする児童の育成を推進するとともに、保護者に取組を周知し、協力を得られるようにする。

重点目標3 健康な生活習慣を確立し、意欲的に心身を鍛える児童を育成する

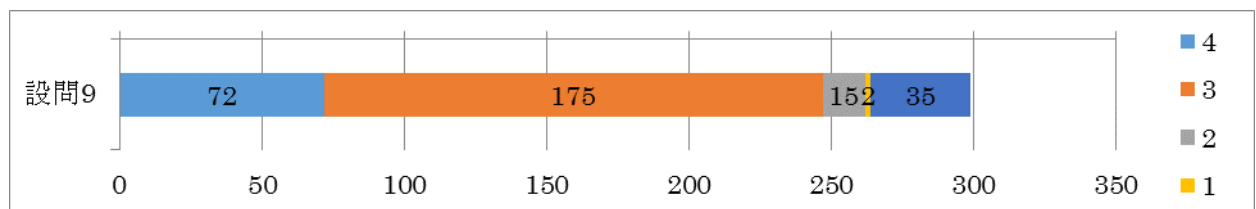


- ・「あてはまる・達成」と評価している保護者の割合は、①87% ②84% ③82%であった。前年度と比較すると「意欲的に体を動かしている」について、保護者76%→87% 児童は、どちらも87%で、高い評価であった。体力は、区の平均を上回っている種目が多く、保護者も概ね高い評価である。今後も、大好きな運動をする時間や場所を提供し、さらに、苦手な種目は、スモールステップで、マイナス要素を解消して、伸びるように、検討していく。
- ・「学校農園月一園での栽培活動と食育指導を受けての健康な体づくり」は保護者86%→82%、児童の「給食は残さず食べている」は76%→78%と、変化が見られる。献身的な保護者の協力のもと、夏野菜や大根の収穫の喜びを体験したり、自分で食べる量を決めて、完食しようとしていたりしている中で、健康な生活習慣を身に付けるよう声をかけていきたい。

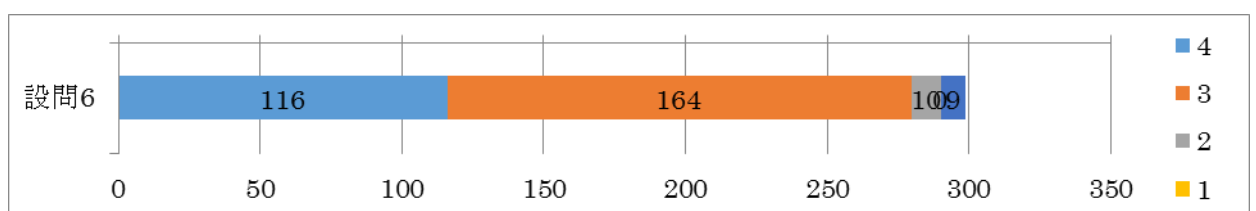
2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

- ・保護者は、18項目中90%以上が9項目で、うれしいことに12項目も昨年度を上回っている。一番伸びた(+6%) 2項目をあげる。

設問9: 学校は教育活動において人権を尊重する姿勢で子どもの指導にあたっている。

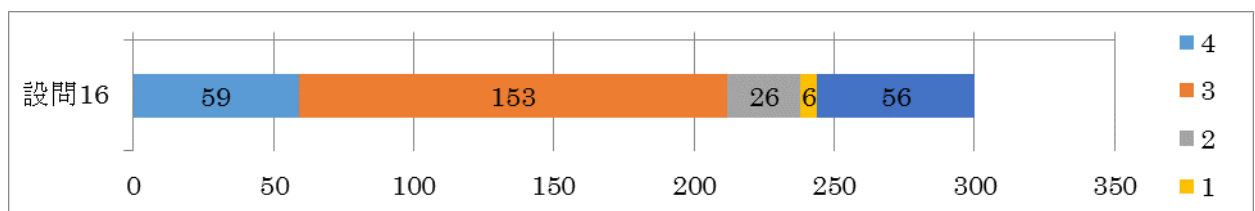


設問6: 学校は児童の健康・体力の増進に努めている。



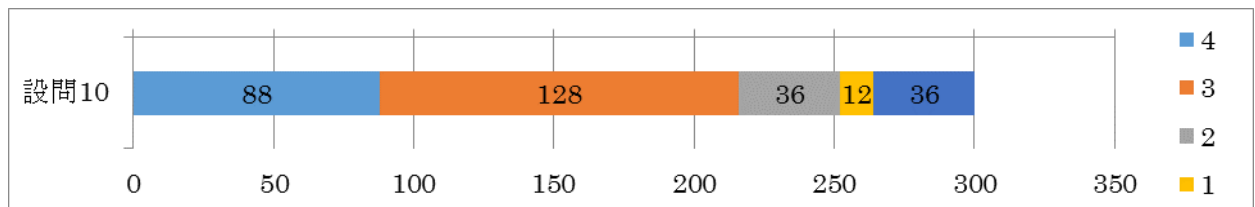
- ・「人権を尊重する姿勢での指導」は、比較すると昨年度 77%→今年度 83%に伸びた。土曜公開授業時に、道徳科の授業を参観し、行事の際の取組等から、以前より高い評価をいただき、日頃から心がけている人権尊重の精神を多くの教員が、さらに人権意識を高く掲げていきたい。
- ・「児童の健康・体力の増進」についても、昨年度 88%→94%まで増えた。体力調査が区の平均を上回っている種目が、多くあることから、今後も、自信をもってマイスクールスポーツの持久力を高める運動に力を注いでいくとともに、日常的な運動習慣を家庭でも同じように身に付けられるようにしていきたい。
- ・児童アンケート〔425名〕からも、12項目中6項目「授業内容がよくわかる」「みんなで使う物を大切にする」「友だちと仲良く生活する」「学校の行事は楽しい」「宿泊行事での友達との触れ合い」「みんなの約束を守っている」が、90～96%の高い評価である。
- ・一方、保護者アンケートには、71～76%で、やや達成不十分の項目が4点ある。その中の2項目をあげる。

設問 16: 学校はコンピュータや図書室を十分活用している。



- ・「わからない」回答が18%もあった。学校公開授業等で、学習の場面を見せていないこと、児童が、保護者にパソコン室で学習したことを話していないこと、学年によってコンピュータ室の利用回数が少ない学級があること、等と考えられる。年間の計画を確実に実施できるように、情報教育の指導月間を設けるなど、改善を図っていきたい。

設問 10: 学校は児童の問題や悩み、トラブルなどを見逃さずに相談にのったり指導したりしている。



- ・昨年までの評価と比べて、「わからない」が7%→12%に増えた。児童の問題や悩み、トラブルがないと思っている場合と、保護者と児童のコミュニケーションの状況による場合等が要因と考えられる。個別に係わり話を聞く時間を学校、学級が、積極的に設定して、児童が相談しやすい環境を増やす努力を、保護者にもわかるように努力していきたい。

3 今後の改善方策

- ・保護者アンケートの回収率を向上させるため、保護者にさらに本評価制度の意義を訴え、評価の基になる話題を提供する。
- ・特別支援教育コーディネーターや特別支援教育校内委員会を中心に、スクールカウンセラー、教育相談員と連携を図りながら、意図的・計画的に特別支援教育の推進を図る。特に、配慮を要する児童の児童理解・集団生活における生活指導・不登校の解消・いじめ防止等、全校体制で取り組み、さらに、安全・安心で、信頼される学校をつくっていく。
- ・学校公開、全体保護者会、学校だより、ホームページ等で、月島第一小の特色ある教育の実践と成果について、広報活動を工夫して、より一層周知を図り、学校・保護者・地域が連携して、児童一人一人を伸ばす教育を推進し、教職員が一丸となって取り組む。

